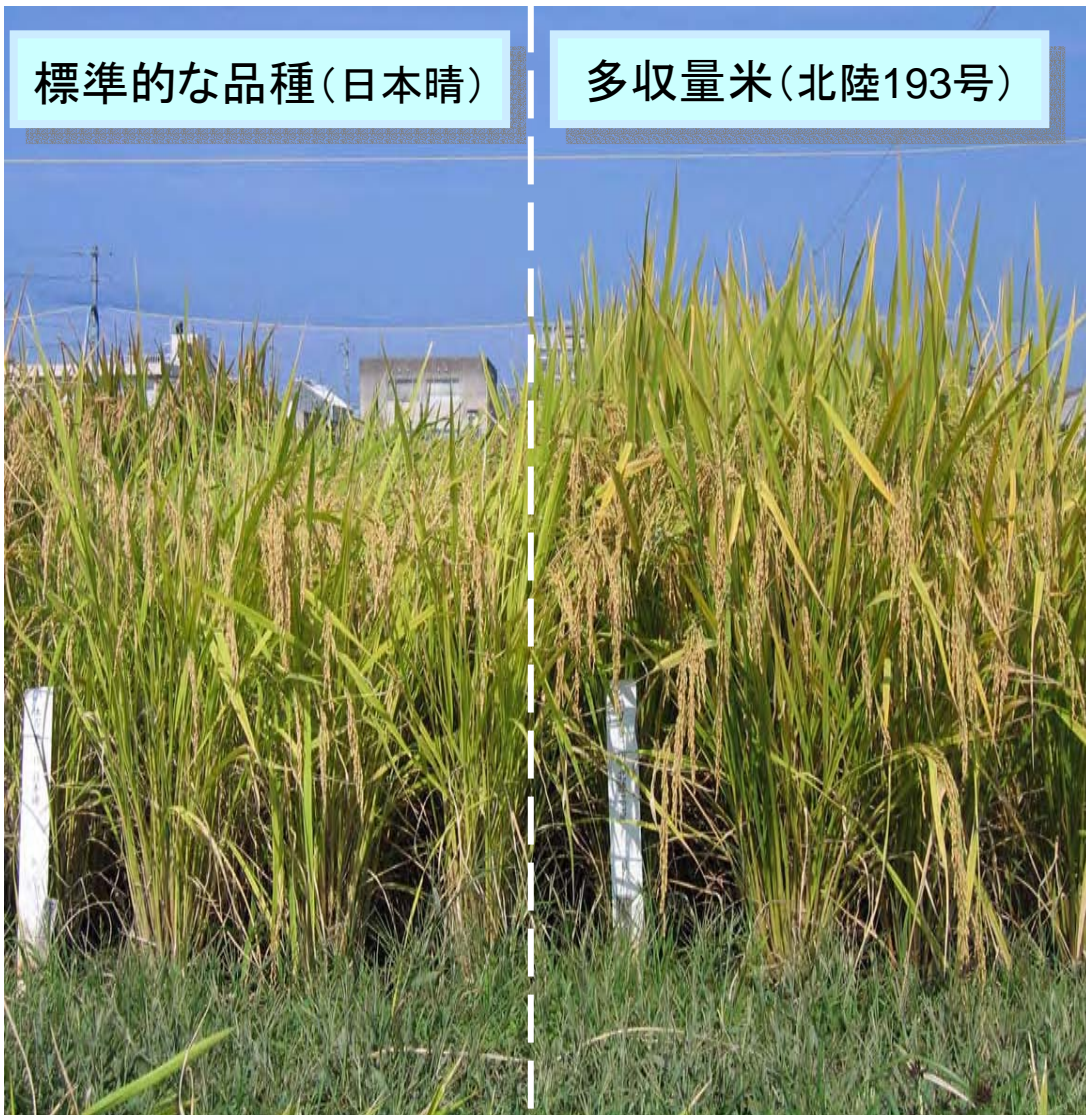


4. 資源作物としての多収量米の利用について

- **主食用米の2倍の収量**(10トン/ha程度)をもつ品種を開発。
- これまですき込んでいた稲わらもバイオ燃料の原料として活用。

標準的な品種(日本晴)

多収量米(北陸193号)



多収量米(北陸193号)



標準的な品種(日本晴)

5-①. 国産バイオ燃料の大幅な生産拡大に向けて—総理報告（工程表）のポイント—

技術開発がなされれば2030年頃には国産バイオ燃料の大幅な生産拡大は可能

技術開発の課題と生産可能量

技術開発

- ① 収集・運搬コストの低減 …………… 山から木を安く下ろす、稲わらを効率よく集める機械等を開発
- ② 資源作物の開発 …………… エタノールを大量に生産できる作物を開発
- ③ エタノール変換効率の向上 …………… 稲わらや間伐材などからエタノールを大量に製造する技術を開発

原料と生産可能量

現在
30KL

2011年
5万KL

2030年頃
大幅な生産拡大
*農林水産省試算 600万kl

・糖質(さとうきび糖みつ 等)
・でんぷん質(くず米 等)

・セルロース系
(稲わら、間伐材 等)
・資源作物

バイオ燃料の利用率の向上

【米国】2017年に350億ガロン
(1.3億KL、日本(600万KL)の22倍)を目標
[2007.1 ブッシュ大統領一般教書演説]

制度

欧米、ブラジルの制度を踏まえ、国内制度を検討

5-②. 国産バイオ燃料の大幅な生産拡大工程表

